

平成24年度第8回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成24年12月17日（月） 13時30分～15時00分
- 場 所： 京都市立病院 4F会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世
理 事 森本 泰介, 新谷 弘幸, 棚橋 一博, 桑原 安江, 位高 光司,
小西 哲郎, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

1 開会

2 議事

(1) 平成24年度補正予算について

原案どおり承認された。

(2) 医療機器の調達について

原案どおり承認された。

(主な質疑内容)

- ・ 新館への医療機器の導入に当たって、従来の機器は、最大限利用するが、原則的には廃棄する。移設は、保守点検契約が新たに必要となるものや、情報システムなどの移設を伴うものは、かえって割高となってしまう。今後、機器の更新計画を作り、計画的に更新をしていく必要がある。

3 報告等

(1) 業務監査報告について

(主な質疑内容)

○業務監査の内容について

- ・ 事務の合理化に向けては、システム構築に労力が掛かるが、実施すれば良くなる。

○労働問題について

- ・ ハラスメントに関しては、要綱を策定しており、法人内部、外部に専用窓口を設けている。事例が発生すれば、管理職等で一定の議論を経て対応することとなる。労働関係は慎重な対応が必要だと考えている。

○税務調査について

- ・ 税務調査においては、消費税でのミス指摘される場合が多いので要注意である。
 - ・ 医療費のうち、自由診療部分は課税対象であるが、誤って非課税として申告し、指摘を受けるケースがある。職員が税法上の取扱いを正しく理解する必要がある。
 - ・ 医療行為は非課税であるが、医療に係る物品等の購入は課税となるため、その部分が損税となり、全国的な問題となっている。市立病院の経営にも大きな影響を与えている。日本医師会等は、課税売上と課税仕入の差額分を還付すべきと訴えている。

(2) 経営状況月次報告（11月分）について

(主な質疑内容)

- ・ 病床利用率の向上は、数年前に大規模急性期病院が直面した課題である。これを取り

越えれば、患者を待たせず、収益性の高い病院となる。課題は見えており、実行が必要である。今は、施設整備や人材育成など、レベルアップするための時期である。

(3) 京都市立病院整備運営事業について

(主な質疑内容)

- ・ 新館には、心臓・血管病センターを設置し、集中治療機能を持った病棟に循環器内科を配置することで、病棟内で心臓カテーテル検査や処置ができるようにする。また、本館改修が終了する来年10月には、脳卒中センターを設置することとしている。

4 閉会